



## 救い

## 榎本栄次

「その人を救おうとするためには共犯者になること」。問題行動を起こして逃げ込んできた高校生を匿って逮捕された元尼崎教会の種谷俊一牧師の言葉である。

「生徒が問題行動を起こした時、困ったことと考えないでどう解決するかを考えたい」。娘たちが通っていた北星学園の黒阪校長はそう仰った。

上に揚げたお二人の言葉からは教育者としての覚悟のような基本姿勢が伝わってくる。教育とは、解説したり、正しいことを説き聞かせたりすることではなく、同じところに立ち、問題を共有し、どう解決するかを共に探し求めることであろう。お二人のことばには血の通った教育者の姿が見える。キリスト教の伝道もこうありたいものである。

大学を卒業し、札幌北光教会の伝道師になったばかりのある日、一人の老人が教会を訪ねてきた。朝から酒の匂いをさせている。行くところがなくて、教会に迷い込んだのだろう。きょろきょろしながら

「キリストか。何するところだ」

「礼拝をしたり、お祈りしたりするところですよ」こう言うとしばらく黙っていて

「なんのため」と問う。

「人を救うためですよ」

「困っている人を救うのか」

「そうですよ」「誰でもか」

「誰でも救われます」

「わしを救ってくれるか」と聞かれて

「できない」とも言えず、「救ったる」と元

気に言ってみた。

「ほんとうか」真剣な顔になった。

「救ったるから、酒止めろ」。

われながら実に「正しい」卑怯な言葉だ。

この時のおじいさんの顔は忘れられない。

「酒止めろ」なんて毎日何十回も言われ続けている一番いやな言葉である。それができればこんなところに来ない。持って行きようのない絶望感のような、殴り掛からんばかりの顔で私をにらんで「バカか」と言って出ていった。

朝早くから目が覚めて、酒を飲む。

「また飲んでいる」とおばあさん。

「うるせえ、」と暴力を振るう。朝から罵り合いの地獄の始まりだ。ごそごそしていると家人にうるさがられるから、用もないが家を出る。ウサを晴らすのは酒しかない。ワンカップでも買って大通り公園のベンチで飲んで時を過ごす。こんな自分の姿が嫌になり、ふらふらと教会に迷い込んだのだろう。期待もしないで「救い」を求めてみた。そこにいた若い牧師から「酒を止めたら救ってやる」などと一番いやなことを聞いた。殴りつけてやりたいような気分でも酒を飲みに出たのだろうか。

今、私がおじいさんにしたことは、対岸の火事で、救いを求めている人を見て、こっちに来たら救ってあげると言っているようなものだったのだろう。あのとき、

「おっさん、一緒に焼酎でも飲みに行こか」と言っていたらどうだったろうか。

「朝から酔っ払いと酒を飲んでるとんでもない伝道師」になっていただろう。

「救う」という言葉が虚しく残った。

## ◇おさそい◇

12月6日(木) 13:30~16:30

「聖書をいっしょに読みましょう」⑧

座長 榎本 栄次(関西セミナーハウス活動センター所長代行)

12月8日(土) 13:30~17:00

今こそ憲法を! 「武器で日本を守るか」

講師 岩佐 英夫(弁護士)

12月8日(土) 16:00~9日(火) 12:00

「スマートでないスマホの裏側

～鉱物資源の採掘からEVまで～」

講師 田中滋((特活)アジア太平洋資料センター  
(PARC)事務局長)

2019年1月13日(日) 16:00~14日(月・祝) 16:00

くエネルギーを考える第7回>

「地震国日本で原発は安全であり得るか?

なぜ再生エネルギーに踏み切れないのか?」

「日本の原発と地震・津波・火山」

講師:竹本 修三(京都大学名誉教授)

「ドイツのエネルギー転換の思想と実践」

講師:木村 護朗(上智大学外国語学部ドイツ  
語科教授)

## ✧ なんどきですか ✧

・かつてセミナーハウスの運営委員をして下さっていた木村量好牧師が11月1日に亡くなりました。お働きに感謝し神の慰めを祈ります。

・いよいよ憲法論議が本格化しようとしています。改憲反対の署名をお願いし、ご協力ありがとうございます。約800筆の署名が集まり、送ることができました。まだ集めていますのでよろしくおねがいします。

・12月8日の集会にぜひお集まりください。平和のために憲法を守ることは国民の義務であり、権利です。できなくなってからぼやくのではなく、今できることを力を合わせて努めましょう。

## 関西セミナーハウス活動センターへの賛助・寄付金

2018.9.1-10.31 順不同・敬称略

岸田 晃子、金山 顕子、中上 和子、南 和子、福留 順子、  
岡安 茂祐、山本 貞子、岩崎 裕保、柳井 一朗、平野 正、  
福島 和子、ワキタ シンジ、桃山アシュラム、君村 千代子、  
廣瀬 芳之、米澤 敏子、佐々木 紘児、藤本和子、南 和子、  
津田 昭二、多田出 佳代子、松野 清美、君村 千代子、  
米澤敏子、武山 泰子、山本 良昭、廣瀬 芳之、安野 優美、  
佐々木 紘児、京都キリスト教協議会(KCC)、山添 みどり、  
中村 信博、八田 尚嘉、横野 朝彦、八田 一郎、  
久保田 展史、株式会社藤木工務店京都支店、  
シュペネマン クラウス、山田 幸子、井尻 勤、  
白方 誠彌、ひいらぎ税理士法人、日本基督教団  
西が丘教会、株式会社柴橋商会京都支店

ありがとうございました。

## 投稿 きらら俳句

- 堰を切る嵐のあとの虫時雨 周豊
- 夕暮れの刈田貫く山陰路 枯骨
- 新しい空気を部屋に野分けあと 小次郎
- 木犀のあるらし家に匂う風 虚舟
- コスモスや風のかたち伏して咲く 公女
- 秋晴れや遠くに聞こゆ鶯の声 星児
- 蟻螂に径ふさがれて下校の子 茶香
- 罅雲西方浄土湧き立てり 岳

## 関西セミナーハウスの四季だより

### 晩秋の贈り物

関西セミナーハウス庭園担当 榎 廣光

彩り鮮やかになってきた野山。木の実もたわわなのか野鳥たちの歌声や囁きがいつの間にか賑やかだ。いよいよシーズン到来である。毎季の「赤い実り」がある。関西セミナーハウスの西側、道路を挟んだ隣接地には栽培されているサンシュユが沢山の赤い実をつけている。この赤い実は、子供の頃食べたグミに一見似ている。散策の人や行楽客からこの木の名前をよく尋ねられる。「サンシュユ」だと答えると、「あの(ひえつき節)山椒の木ですか」と返ってくることが多い。

別種である。サンシュユは漢字で山茱萸と表す。中国朝鮮半島原産のミズキ科植物である。果肉は乾燥して漢方薬として用いられるそうだ。山椒はミカン科である。

因みに「ひえつき節」は宮崎県椎葉村の民謡で労働歌である。この歌に出てくる「山椒の木と鈴」は源氏那須大八郎と平家鶴富姫の恋にまつわる木だそうだ。

四季はあるがまま、人の営みに彩りを添えてくれるささやかな贈り物だと感動し、感謝している。